

Writing Support Center News Letter

ライティングサポートセンターニュースレター

No.006 発行日：2024年5月8日

ライティングサポートセンター・ニュースレターは、当センターの活動を、先生方により知っていただき、ご活用願うこと、学生に向けて利用を促していただくことを目的に発行しています。

巻頭言

アカデミック・ライティングを身につける

栢木 紀哉 教学企画部長補佐／経営学部 経営学科准教授

アカデミック・ライティングという言葉をご存じでしょうか。アカデミック・ライティングを独学で身につけることはなかなか大変です。大学生になって、レポート課題、卒業論文などの論文を作成するとき、「文章を書くことが苦手」、「何を書けばよいのかわからない」などと悩む方が多いと思います。私もその一人でした。ゼミでレポート課題を課されたときは、研究者の執筆した専門的な学術論文を検索し、学んできた知識をもとに内容を理解・要約して、考察をまとめて報告することを、何度も繰り返したことを覚えています。当時は、アカデミック・ライティングという言葉をほとんど知らず、ゼミの担当教員から示されたキーワードを手掛かりに、図書館などで資料を参考にして、苦労しながらレポートをまとめていました。ゼミでの報告の際には、担当教員や他のゼミ生から、わかりづらい箇所や文章の構成について質問やアドバイスをされるたびに、しどろもどろになりながら応答していました。こうしたレポートの作成と報告を繰り返しながら、実践的にレポートを書く上での心得のようなものを身につけていったのだと思います。



大学で課されるレポートは、高校までの教育で取り組んだ、特定のテーマについて感じたことや意見をまとめる作文や感想文とは大きく異なります。優れたレポートを作成するには、アカデミック・ライティングを磨くことが大切になります。アカデミック・ライティングでは、読み手が書き手の論理的な主張を正確に理解して、それを客観的に検証できる形で文章を作成する技術が必要になります。大学で課されるレポート、論文などは、アカデミック・ライティングの特徴やルールに沿って作成する必要があります。多くの場合、専門的な内容であったり、まだ答えのない「問い」について論じたりします。読み手に内容を誤解されないように、正確にわかりやすく伝えなければなりません。また、立てた「問い」を裏付ける根拠を示しながら、先行研究やアンケート調査などから集めたデータをもとに、他人の主張と自分の主張を区別してまとめていく必要があります。個人的な感想や気持ではなく、客観的に見て内容が妥当かを評価できる文章を書くことが求められます。さらに、序論、本論、結論といった3つの構成を意識しながら、筋の通った内容になるように考えなければなりません。

現在、龍谷大学には、学生がアカデミック・ライティングを身につけられるようにサポートしてくれるライティングサポートセンターが設置されています。深草・瀬田・大宮の3つのキャンパスそれぞれにあり、書くことのトレーニングを積んだチューターが個別に相談に乗ってくれます。私は、2023年度より教学企画部の委員として、ライティングスーパーバイザーの島村健司先生とお話しする機会を得ることができました。アカデミック・ライティングに対する基本姿勢、センターの活動内容を伺い、学生には、センターを積極的に活用して欲しいと感じました。そこで、私の担当する1年生のゼミでは、レポート課題を課し、ライティングサポートセンターのチューターによる支援を受けるようにアドバイスしています。学生は、慣れないレポート課題の書き方について、チューターに相談しながら実践的に取り組むことで、アカデミック・ライティングを身につけることができるでしょう。

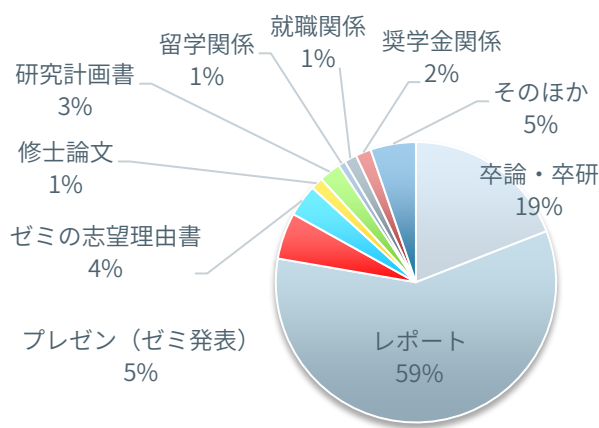
ご報告2023年度の実績

(1) 相談者総数：815人（のべ、対面：794人、オンライン：21人）

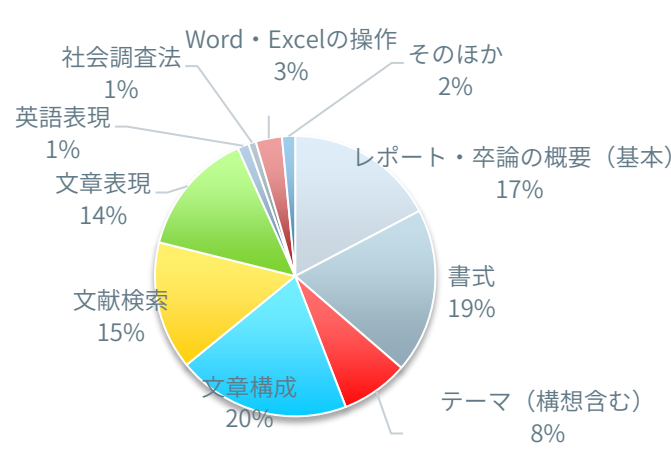
＊対面相談枠は45分の設定としているため45分の区切り、オンライン相談枠は60分の設定としているため60分の区切りで、それぞれで算出している。以下、特記しないかぎり、これにしたがった算出。

(2) 相談内容

【相談内容種別の割合】



【相談内容性質の割合】



(3) 学部（大学院）・学年別

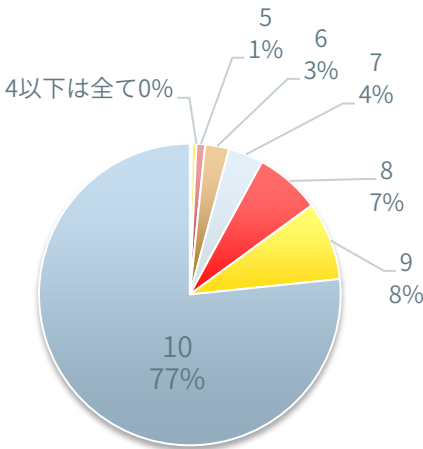
＊単位：人 表中、国際は国際文化を、先端理工は理工を含む。

学年	文	経済	経営	法	政策	国際	先端理工	社会	農	心理	短期大	学年合計
1年	61	11	4	4	14	98	22	36	22	11	6	289
2年	105	1	1	7	3	46	8	13	25	-	13	222
3年	19	6	1	1	2	14	9	10	10	-	-	72
4年以上	73	18	0	2	0	20	11	25	8	-	-	157
修士	18	1	0	1	1	3	4	3	2	-	-	33
博士	1	0	0	0	0	12	0	3	0	-	-	16
研究生	1	17	0	0	0	6	0	0	0	-	-	24
交換留学生（院）	2	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	2
学部合計	280	54	6	15	20	199	54	90	67	11	19	815

(4) 学部・研究科・学科別 *単位：人

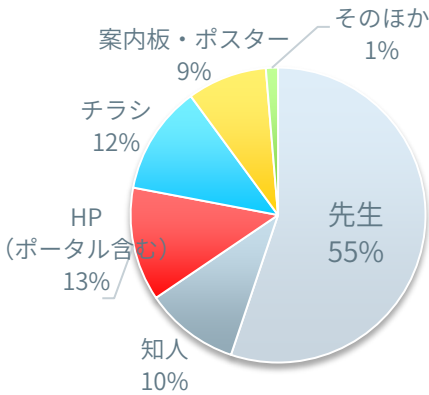
学 部 研究科	学科・専攻・課程	相談 者数	合計	2022年度 相談者数
文学部	真宗学科	32	260	30
	仏教学科	18		77
	哲学科・哲学専攻	25		25
	哲学科・教育学専攻	29		24
	臨床心理学科	1		18
	歴史学科・日本史学専攻	7		23
	歴史学科・東洋史学専攻	18		20
	歴史学科・仏教史学専攻	14		49
	歴史学科・文化遺産学専攻	1		0
	日本語日本文学科	108		108
	英語英米文学科	7		18
経済学部	経済学部（1・2年次）	12	36	0
	現代経済学科	20		59
	国際経済学科	4		1
経営学部	経営学科	6	6	20
法学部	法律学科	14	14	18
政策学部	政策学科	19	19	17
国際学部	グローバルスタディーズ学科	121	180	161
	国際文化学科	59		107
国際文化	国際文化学科	2	2	3
先端理工学部	数理・情報科学課程	18	49	5
	知能情報メディア課程	7		3
	電子情報通信課程	0		2
	機械工学・ロボティクス課程	12		5
	応用化学課程	3		0
	環境生態工学課程	9		0
理工学部	機械システム工学科	1	1	2
	情報メディア学科	0		8
	数理情報学科	0		1
社会学部	社会学科	44	86	91
	コミュニティマネジメント学科	19		25
	現代福祉学科	23		14
農学部	植物生命科学科	12	65	12
	資源生物科学科	3		12
	食品栄養学科	16		11
	食料農業システム学科	17		98
	生命科学科	9		
	農学科	8		
心理学部	心理学科	11	11	
短期大学部	社会福祉学科	19	19	44
文学研究科	真宗学専攻	2	20	1
	仏教学専攻	10		17
	日本語日本文学専攻	3		0
	臨床心理学専攻	3		0
	交換留学生	2		0
経済学研究科	経済学専攻	18	18	3
法学研究科	法律学専攻	1	1	0
政策学研究科	政策学専攻	1	1	0
理工学研究科	環境ソリューション工学専攻	2	4	0
	物質化学専攻	2		0
社会研究科	社会学専攻	2	4	2
	社会福祉学専攻	2		1
国際学研究科	言語コミュニケーション専攻	2	17	2
	国際文化学専攻	15		4
農学研究科	食農科学専攻	2	2	0
合 計		815	815	1141

(5) 利用者の満足度
(10段階：10<良>～1<悪>)



10段階で(10<良>～1<悪>)
90%以上の学生が
<10～8>と回答しました。

(6) 広報の効果
どのようなきっかけでセンター
を利用したか。

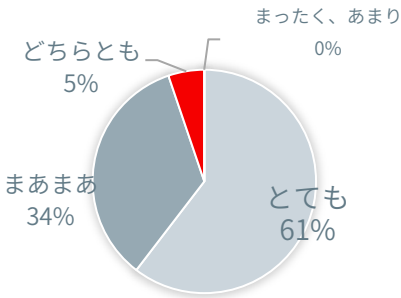


相談窓口の様子（深草）

(7) 講習会

			実施状況			
日程	講習テーマ	参加人数 (申込人数)	深 草	瀬 田	大 宮	オ ン ラ イ ン
5/24	レポートのタイプを知るーレポートを書きはじめる前にー	55人 (79人)	○	○		○
5/26	レポートの実際を知るー論証とはー	30人 (47人)	○	○		○
11/6	レポート・卒業論文に役立つ資料の探し方	9人 (19人)	○	○		○
11/8	卒業論文・卒業研究をスムーズに作成するために ～論文の基本、再確認！～	16人 (29人)	○	○		○
11/10	引用の仕方と注・参考文献の書き方	16人 (37人)	○	○		○
11/13	卒業論文・論証型レポートをスムーズに作成するために ～論文の基本、再確認！～	7人 (9人)			○	

【講習会参加者の評価（役立ち度）】



*時間帯は、12：40～13：20（昼休み）に実施。
*深草は、和顔館アクティビティホールで実施。
*瀬田は、深草のライブ中継で実施。場所は、智光館B1ミーティングルーム
*11/13は、大宮単独・対面のみで実施。場所は、東翼1Fアクティビティホール

- ほかにも以下のような取り組みを行いました。
- ▶ 先生方と連携した出張講習
先生からの要望を受けて、レポートにかんするテーマで授業実施教室にて実施しました。年間 7 件（学生受講数合計 137 人）を行いました。
 - ▶ 先生方と連携したレポート課題
年間 5 件（相談対応数 170 件）でした。
 - ▶ 図書館との連携（おすすめ本）
各学期に、それぞれテーマを設け、テーマに応じた選書を展覧してもらい、ライティングと表裏一体の読書を学生に促しました。

ご報告 学科・部署との連携

2023年度は、以下のような連携を行いました。

(1) 高大連携推進室との連携による講習会

対象：龍谷大学付属平安高等学校3年生
日時／場所：5月9日（火）14：30～15：00／龍谷大学付属平安高等学校
テーマ：どういうふうを書く 大学で書く学びにつなげるヒント
解説者：ライティングスーパーバイザー
概要：感想文とレポートのちがい、および一文一義で書く意義を解説する。

(2) 学生部との連携による講習会

対象：課外活動選抜入試入学生
日時／場所：5月17日（水）12：40～13：20／オンライン（zoom）
テーマ：なるほど、レポートのコツ
解説者：ライティングスーパーバイザー（センター紹介でチューターからの一言アピールあり）
概要：感想文とレポートのちがい、およびレポートのタイプに応じた書き方を解説する。
参加者：108人（関係者除く）

(3) レポート添削方法の研修

対象：社会学部コミュニティーマネジメント学科ゼミサポーター
日時／場所：5月19日（金）12:40～13:20／オンライン（zoom）
解説者：ライティングスーパーバイザー

ご要望は、奥付にある【連絡先】までお寄せください。

ライティングサポートセンターでは、以下の要領で先生からの依頼を受けて出張講習を実施しております。ご活用くださいますよう、ご案内申し上げます。

【出張講習の要領】

1. 出張講習の実施者・対象・実施対応日・実施場所

- 1) 実施者：スーパーバイザー、もしくはチューター・リーダー（1名）
- 2) 対象：原則として、1年生の受講科目を対象とします。
ただし、その他の授業についても、ご相談の上、実施することを検討させていただきます。
- 3) 実施対応日：月～金曜日 10：00～17：00
- 4) 実施場所：授業実施教室

2. 実施内容

以下の4つの講習テーマを用意しております。そのなかから1つをお選びください。それぞれの概要は、次頁をご覧ください。所要時間は各テーマおよそ60分です（そのうち、センターの紹介やアンケートに少々時間をください）。

- ① レポートにおけるテーマの絞り方
- ② レポートの作り方A——構成を知ろう
- ③ レポートの作り方B——手順を知ろう
- ④ レポートの作り方C——引用の仕方・注と参考文献の書き方

3. 実施までの経緯

- 1) 連絡先 wsc@ad.ryukoku.ac.jp
- 2) 連絡から実施までの流れ
 - ① 実施希望日の2週間前までにご連絡ください。
 - ② その後、簡単な打ち合わせをお願いします。
 - ③ 授業実施教室にて実施します。
- 3) ご連絡いただく内容
 - ① 先生のお名前
 - ② メールアドレス
 - ③ 該当科目名
 - ④ 受講者数
 - ⑤ 実施内容（「2. 実施内容」①～④の中から1つ選んでください。）
 - ⑥ 実施希望日・講時（候補日を3日ほどお知らせください。）
 - ⑦ 実施場所（設備の面で、教室変更をお願いする場合があります。）
 - ⑧ そのほか（ハイブリッド形態で実施するなど）

4) 注意事項

- ・極力実施できるように努めますが、日程が合わないなど、やむをえず実施できない場合は、ご了承ください。
- ・センターの出張講習は、1つの講義科目につき、1回とさせていただきます。



出張講習の様子（深草）

【各講習テーマの概要】

①レポートにおけるテーマの絞り方

レポート課題を提示されてもどのように取り組んでいけばよいのかわからない学生が数多くいます。本講習では、レポート課題に則して、自分なりの観点を見出していく過程を説明します。まず、自分のレポート課題に対する興味のありどころを考える方向です。次に、興味や関心があることを軸に検索し、収集した情報をもとに広がりや深みを探ります。最後に、レポート課題との関係性を考えます。このような流れを把握してもらう内容になっています。

②レポートの作り方A ――構成を知ろう！

本講習は、レポートを作成する基本的な事項として、その構成を把握してもらう内容となっています。具体的には、まず、レポートを難しく感じる原因に、問いの設定および自分の考えが不明瞭なままに書きすすめる点にあることを解説します。自分の考えが明確にできたら、次にそれを読み手に分かりやすく伝えなければなりません。そのためのレポートの基本的な構成として、序論、本論、結論の役割について簡潔に説明します。なかでも序論の重要性を強調して解説します。序論ではそのレポートで自分が主張したいことを明確にし、本論は序論における主張の裏づけとしての役割を担います。結論は序論との対応を確認し、本論の要点のみを簡潔にまとめます。そのような説明のあと、レポート見本を用いて確認します。

③レポートの作り方B ――手順を知ろう！

本講習は、レポートを作成していく際の思考の仕方と、作成過程を理解してもらうことが、目的となっています。具体的には、「メモ」「構想表」を用いることを重視して説明します。その際に「読む」「調べる」「メモ」の過程を、必要に応じて「メモ」や「構想表」の実例を示しながら解説します。「構想表」については、序論・本論・結論の要点を踏まえながら、「メモ」を活用して論理の道筋をつくっていくあり方を提示します。また、推敲の必要性についても付言し、完成に至るまでの経緯を知ってもらいます。

④レポートの作り方C ――引用の仕方・注と参考文献の書き方

本講習は、引用の大切さを理解すること、そして注・参考文献の書き方をマスターすることが目的です。これらの表記方法については、おおそ『社会学評論』の「スタイルガイド」に拠っています。具体的には「直接引用する方法」や「要約引用する方法」を説明し、実際のレポートを交えて理解を促します。その後、実際に引用したものに注をつけ出典を掲示するという一連の工程を示します。最後に様々な参考文献（インターネットも含む）の書き方を説明します。

ご案内 授業実施教室でのライティングサポートセンター紹介・説明

ライティングサポートセンターでは、学生に利用を促す一環として、先生方が授業をされている教室へ出張して、当センターの紹介・説明を行っております。所要時間は、10分程度です。概要は、つぎのとおりとなっております。

【ライティングサポートセンター紹介・説明の概要】

- (1) ライティングサポートセンターとは
センターの基本姿勢や対応範囲などを説明します。
- (2) よくある相談
具体的にどのような相談がよく寄せられるのかを紹介します。
- (3) 参考資料
センターで用意している資料について紹介します。
- (4) 本年度の開室
本年度の開室情報を提示します。

ご要望は、奥付にある【連絡先】までお寄せください。



相談窓口の様子（大宮）

ライティングサポートセンター（以下、センター）主催の講習会を下記のとおり実施いたします。つきましては、教員各位からも学生に講習会開催についてご案内いただきたくご依頼申し上げます。センターの利用者アンケート結果では、利用したきっかけの半数以上が先生方からのご紹介です。少しでも多くの学生に情報を届けるため、可能でしたら授業のなかでご周知いただけますと幸いです。ご協力いただける場合は、先生方の大切な授業の時間を割いていただくことになり、誠に申し訳ございません。何卒ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

講習会では、チューター・リーダー（大学院生）がパワーポイントを用いて説明いたします。

実施は、対面とオンラインのハイブリッド形式を予定しております。瀬田学舎では、深草キャンパスの講習会をライブ配信いたしますので、PC等を用いてオンライン参加してもらう必要はありません。

記

1. 講習会の内容

- ① 講習テーマ：レポートのタイプを知る－レポートを書き始める前に－

日時：2024年5月22日（水）12：40～13：20

概要：レポートと感想文とのちがい、整理型と論証型のとらえ方を解説する内容です。

- ② 講習テーマ：レポートの実際を知る－論証とは－

日時：2024年5月24日（金）12：40～13：20

概要：多くの学生が難しいと感じる論証型レポートの、とりくむべき要点を解説する内容です。

2. 参加方法

人数把握のため、事前のお申込みをお願いしております。

対面：深草キャンパス 和顔館 1F アクティビティホール

※ 当日の講習会は、オンライン画面を録画します。

また、対面会場を撮影する場合があります。あらかじめご了承ください。

瀬田キャンパス 智光館 B1F スチューデントコモンズ ミーティングルーム

※ 深草キャンパスの講習会をライブ配信します。

オンライン：Google Meet ※ 当日参加URLをメールにてお送りします。

3. 学生向けのチラシ

龍谷大学ライティングサポートセンターのWebページにダウンロードしてご利用いただける形式でアップしています。

https://www.ryukoku.ac.jp/nc/archives/001/202404/2024講習会チラシ【第1学期_前期】.pdf



また、必要部数を申し出ていただければ、印刷してお渡しすることもできます。

講習会の情報は、ライティングサポートセンターのNewsにも掲載しています。

<https://www.ryukoku.ac.jp/writingsupport/>



講習会の様子
（瀬田 ※ライブ配信）



＊お問い合わせは、
奥付にある【連絡先】までお寄せください。

平素よりライティングサポートセンター（以下、センター）の活動にご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、標記の件について、センターを学生に周知していただきたく、下記のとおりご依頼申し上げます。先生方におかれましては、ご多忙のところ誠に恐縮ですが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

センターでは、学生へのアカデミックライティングの指導を主な目的として、「学生に考えさせる」（答えを教えず、考え出す機会を与える）ことを基本姿勢に、大学院生を中心としたチューターがレポートや論文作成など、書くことに関するサポートを行っています。センターへのご意見・ご質問などがございましたら、奥付にある【連絡先】までお寄せください。

記

ご依頼の内容

学生にセンターについて以下の事項について、ご紹介ください。

1) センターの概要

レポートや卒業論文など書くことにかかわる相談に応じるところです。センターでは、大学院生のチューターがいっしょに考え、学生のみなさんが自らの答えにたどり着けるようサポートします。レポートや論文、レジュメなどを作成するにあたって、例えば、次のようなケースで当センターをご活用ください。

- ▶ レポート課題や卒業論文などについて、どのように取り組めばよいのかわからない。
- ▶ 書いてみたものの、文章に自信がないので他の人に意見を聞きたい。
- ▶ 根拠になる資料を探したいけど、どうすればいいのかわからない。
- ▶ 英語でレポートを書かないといけないけど、形式や表現に自信がない。

*資料も用意しています。「レポート書式見本」や「レポートを書くためのチェックシート」など、ほかにも多数用意しているので、相談時、チューターに聞いてみてください。

2) 利用方法

各キャンパスの学生センター内にあるライティングサポートセンターまで直接お越しください。

【日時】 4月15日～7月29日 11:30～16:00（受付15:45まで）

*基本は授業実施日に準じます。

【場所・曜日】

深草：和顔館1F学生センター内 月～金曜日

大宮：東豊2F学生センター内 月・水・木曜日

瀬田：智光館B1F学生センター内 水～金曜日

【利用方法】 対面・オンラインでの相談が可能です。

◆ 対面での相談について（予約不要）

◆ オンラインでの相談について（要予約）

ホームページ（<https://calendar.app.google/pQy5TmASQ9sVwaks9>）から予約が必要です。



<参考> ライティングサポートセンターの紹介動画（1分17秒）

<https://drive.google.com/file/d/1zQXcFbfFAJNsDQ5C2tdwrlhz74BEpsOO/view?usp=sharing>



【編集】

ライティングサポートセンター
（教学企画部）

E-mail: wsc@ad.ryukoku.ac.jp
担当：教学企画部 栃木、矢守
（内線1051,1050）